元気っ子　Ｎｏ289 ながさわ保育園

園　長　　中　瀬　弦　偉

1989 年に国連で採択された「子どもの権利条約」というものがあります。日本は 1994 年に批准しており、保育においてもこの条約をとても大切にしております。ながさわ保育園でも、定期的にこの条約についての「保育の振り返り」を職員にしてもらっているのですが、その中に第 12 条「意見表明権」というものがあります。これは「子どもの意見の尊重」ということなのですが、もっと身近な言葉に置き換えると、「子どもの声に耳を傾ける」ということです。

この権利というのは人類の進化と密接な関係があります。人類は集団を大きくすることで脳を大きくし、進化してきたと言われています。そして集団の中ではお互いの気持ちを伝え合うことが必要になってきます。そのためには自分の気持ちをきちんと言葉で表現し、相手の気持ちを聞いて共感する力が必要だと言われています。また今後、人工知能（AI）の時代になっていくと、こういった社会的スキルはますます重要になってくるとも言われていますし、今の社会でもこういったスキルのニーズはどんどん高まってきています。そしてこのスキルの習得は家庭の中だけでは難しく、子ども集団の中でこそ習得できるスキルだと言われています。

何年か前にこんなことがありました。毎年、保育園では夏になると子どもたちが園庭に出る前に虫取り網を事務所に借りにきます。ある時、虫取り網を借りていった年長の男の子がしょんぼりしながら職員に連れられて入ってきました。右手には折れた虫取り網が握られています。僕はすぐに状況が理解できていましたが、あえて「〇〇君どうした？」と聞くと、しばらくの沈黙の後、その男の子は泣きながら、どうやって使っていて折れてしまったかを僕に詳しく話してくれました。もし、これを職員が全て説明してしまっていたら、その男の子は一言謝っておしまいになっていたかもしれません。この男の子はきっと勇気を出して話してくれたのだろうし、心が大きく一歩成長した瞬間だっただろうと胸が熱くなったことを覚えています。

今、子どもたちには聞く力、話す力が求められています。小学校に入学すると、先生の話を聞かなくてはなりません。そこで、就学前において、黙って先生の話を聞くことを学ぶ必要があるという人がいます。しかし、言語における脳の感受性を高める研究の中で、乳幼児期に、子どもの言語理解力や表現力が発達する理由は、ひとえに、潤沢で応答的な言語環境で育つことであり、それが、小学校に行って、先生の説明を聞き、理解するということに繋がるとあります。ということは、乳幼児期に子どもの言うことを十分に聞いてあげること（受け止めてあげること）が、先生の話も聞くことができるようになるということになると思います。